

課題の4	新品目野菜栽培調査（新規）
------	---------------

近年、需要が見込まれている西洋野菜等を試験栽培することにより、新たな特産となり得る可能性について、本市の気候条件下で栽培した場合の特性・特徴を把握し、今後の産地化に向けた基礎資料とする。

1 調査内容

(1) 栽培環境 ビニールパイプハウス及び露地ほ場

(2) 供試品種及び調査内容

No.	作目名	栽培環境	品種名	調査項目
1	そら豆	ハウス、露地	ファーベ	生育状況、収穫重等
2	カラシナ コリアンダー フェンネル	露地	-	生育状況、収穫時期等


2 耕種概要、生育状況及び調査結果

(1) そら豆（ファーベ）

イタリアのそら豆ファーベについて、ハウス及び露地で栽培したときの収穫時期及び収量を比較することで、適した栽培条件等を確認する。

①播種日：4月15日

②供試品種：

品種名	特徴	収穫物
ファーベ	長さが20cm程度の長莢で、莢の中に5～6粒入り、莢数も多い。 可食部は淡緑色で肉質は軟らかく甘みに富んでいる。	

③定植日：5月16日（播種後32日）

④栽植様式：床幅70cm、株間45cm、1条植え

⑤施肥量：青森県野菜栽培の手引きに準ずる

区分	肥料名	施肥量	施肥量（成分量 kg/10a）		
		(kg/10a)	窒素 N	リン酸 P	加里 K
基肥	CDUたまご化成S555	80	12.0	12.0	12.0
	パワーリン	60	-	18.0	-
追肥（3回分）	NK2号	56.3	9.0	0	9.0
計			21.0	30.0	21.0

⑥収穫日：ハウス6/24～7/29（盛期7/11）

露地7/4～7/29（盛期7/19）

⑦生育状況及び収量

生育状況については図1、収量の結果を表1に示した。

ハウス栽培については生育スピードが早く、葉が旺盛に茂っており、収穫までの日数は露地栽培に比べて10日早くなった。収穫始めから約2週間で盛期を迎え、約1か月収穫出来た。

しかしながら、収穫後期になると葉が落ち始めたことで莢も小さくなり、実も小さくなる傾向があった。このことから、収穫始めから約3週間が収穫適期と思われる。

同様に露地栽培についてはハウス栽培に比べて生育スピードは遅かったものの、莢の大きさや実は大きな差がなかった。収穫盛期も差がなかったものの、収穫期間はハウスでは約1か月であったが露地では1週間短い結果となった。

収量については、ハウス栽培が1株あたり20.2本、露地栽培が21.4本であり、わずかに露地栽培の収量が良かった。

図1 生育及び収穫時の状況



表1 収量

区分	播種～収穫まで	植栽株数	収穫本数	平均収穫本数
ハウス	71日	5	101	20.2
露地	81日	5	107	21.4

⑧まとめ

今回の調査の結果、ハウス栽培と露地栽培では生育スピードが異なり、収穫期間も差があったものの、収穫始めから収穫盛期までの期間は一緒で、品質や収量も大きな差はなかった。

以上のことからハウス栽培と遜色なく露地で十分に栽培できるものとする。

(2) カラシナ、コリアンダー、フェンネル

通常、カラシナは葉を利用し、コリアンダー、フェンネルは葉もしくは乾燥種子を食用として利用するが、いずれの品目も未成熟の種子を食用として利用する場合の収穫のタイミングを確認する。

①播種日：4月15日

②供試品種：カラシナ、コリアンダー、フェンネル

③栽植様式：【カラシナ】床幅 70 cm、株間 40 cm、条間 30 cm、2条植

【コリアンダー】床幅 70 cm、株間 40 cm、1条植

【フェンネル】床幅 70 cm、株間 50 cm、1条植

④施肥量：各品目とも同じ

区分	肥料名	施肥量	施肥量（成分量 kg/10a）		
		(kg/10a)	窒素 N	リン酸 P	加里 K
基肥	CDU たまご化成 S555	66.7	10.0	10.0	10.0
	計		10.0	10.0	10.0

⑤生育状況及び収穫適期

生育状況については図1、収穫適期を表1に示した。

カラシナの生育状況は、播種から発芽までが早く、生育も順調であり、アオムシによる食害が見られたが開花結実には影響はなかった。

未成熟子実を収穫するタイミングは、莢が黄色く色づく頃であり、茶色い種子になるまで概ね1週間から2週間と思われるため、適期を逃さないよう注意が必要である。

コリアンダーの生育状況は、特段病害虫に侵されることもなく開花結実は順調であった。未成熟子実を収穫するタイミングは、開花後に子実が膨らみ始めたのち、2～3mmの大きさになった頃と思われる。収穫適期を逃すと子実が茶色くなりはじめ、固くなってしまいうため注意が必要である。

フェンネルの生育状況は、おおむね順調であったものの、湿害に弱く欠株となったものがあったため、マルチ栽培は向かないと思われる。害虫についてはアゲハチョウの幼虫による食害があったが、生育が旺盛であるため開花結実には影響しなかった。

未成熟子実を収穫するタイミングはコリアンダー同様に、子実が膨らみ始め、2～3mmの頃に収穫する必要がある。

⑥まとめ

今回の調査から、未成熟子実を収穫するには、栽培自体は比較的容易であるが、子実が固くなるまでの期間が短い品目もあるため、日頃から状況を注視し収穫のタイミングを逃さないことが重要である。

図1 生育状況等

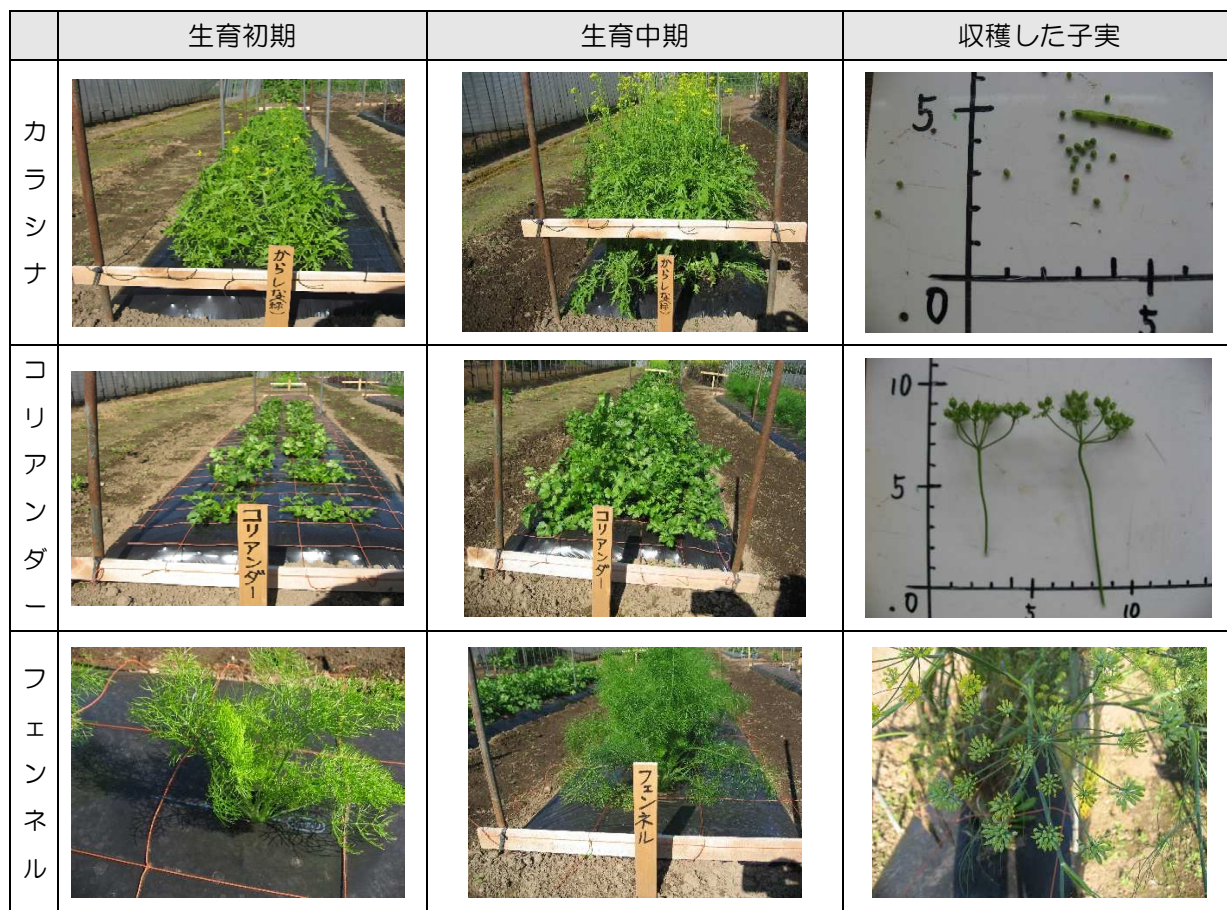


表1 収穫適期

品目	播種～開花始め	播種～収穫まで	収穫適期
カラシナ	55日	約100日	7/25～8/15
コリアンダー	87日	約120日	8/10～8/31
フェンネル	138日	約150日	9/8～9/29

3 まとめ（全体）

今回試験した品目のうち、そら豆（ファーベ）については比較的簡単に栽培でき、ハウス栽培は収穫時期や生育が早まることが確認できたが、収量は露地栽培と変わらないため、露地栽培で十分対応できるものと確認できた。

カラシナ、コリアンダー、フェンネルの未成熟子実収穫については、栽培は容易であるものの害虫に注意をする必要がある。また、収穫のタイミングが重要となるため、普段から成熟具合を注視する必要がある。